

トランス事業拡充

サンシン電気 中国に委託新工場

新規取引先獲得

サンシン電気(東京都練馬区、石井宏宗社長)は、トランスを委託生産する工場を2022年度中に中国・大連市に設置する。生産能力は月産100万個で、同工場の部品納入先だった白物家電やエアコン、OA機器メーカーといった取引先も新規で取得する。全体の生産数は現在比約21倍の月産約105万個に増加する見通し。トランス事業の年間売上高は約1億円だが、23年度から同10億円以上を目指す。将来は東南アジアへのトランスの輸出も視野に入れる。

売上高 23年度10億円狙う

サンシン電気のトランスは電子部品メーカーの生産拠点。トランス生産拠点は、既存の撤退が決定。そこで中国・深圳市の委託工場を含め2カ所になる。大連市の工場は別電子部品メーカーの委託することにした。納品先も従来通りとなる。このため納品先メーカーは、4M(人、モ)材料価格高騰に比べて

低いトランス価格を適正化した考えだが、取引を継続するメリット

トが大きいため価格転嫁は円滑に進むと見ている。同社は電子部品商社だが、ノイズが少ない「球状トランス」を独自開発するなど幅広く事業を展開。同社単体の年間売上高は30億円規模だが、生産拠点の強化で同40億円規模になる見通し。



委託生産する工場内部 (中国・大連市)